

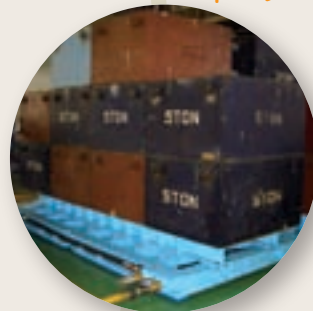
ひと目でわかる 高天井用反射笠に
東洋鋼鋳 「銀鏡めっき金属板」



重梱包物の結束に
「結束機・結束バンド」



重量物搬送に
「エアベアリング」



たとえば…

工場や駅の屋根に
「植毛鋼板」



光ダクトに
「銀鏡めっき金属板」



圧延

当社の
コア技術

表面処理 ラミネート

日本で民間初のぶりきメーカー

鉄 素材を自在に操る東洋鋼鋳。
当社の技術力が毎日の暮らしに
彩りを添えています。

私たち東洋鋼鋳は1934年に日本で民間初のぶりきメーカーとして誕生しました。
歴史の中で培ってきた圧延・表面処理・ラミネート等当社独自の技術を発展させ、
非鉄・樹脂等を精密加工することにより、世界の鉄鋼業で類をみないビジネスモデルの会社を目指しております。

当中間期のポイント

● **売上高** 57,721百万円
(前年同期比 6.1%減)

● **営業利益** 2,128百万円
(前年同期比 58.9%減)

● **経常利益** 2,186百万円
(前年同期比 57.5%減)

● **中間純利益** 1,473百万円
(前年同期比 55.1%減)

POINT ① 震災の影響による需要低下に加え
為替の影響を受ける

POINT ② 鋼板関連事業は薄板類の需要低迷等により
売上・収益ともに減少する

POINT ③ 機能材料関連事業は需要はまざまずも
為替や市況の影響を受ける

POINT ④ その他事業は硬質合金の需要低迷により伸び悩む

セグメント情報

鋼板関連事業

77.5%
45,641百万円



【事業内容】

缶用材料、電気・電子部品、自動車・産業機械部品、建築・家電向け材料の製造および販売

【営業の概況】

- ・飲料缶材は夏季の電力制限に備えた前倒し生産で前半は好調に推移したものの、後半に入り生産調整で前年同期を下回る
- ・工業用缶材は塗料・化学などの需要不振により前年同期を下回る
- ・電気・電子部品向けは、電池材が輸出向けで一部ユーザーの需要低迷により伸び悩む

機能材料関連事業

15.4%
9,039百万円



【事業内容】

磁気ディスク用アルミ基板・光学用機能フィルムの製造および販売

【営業の概況】

- ・磁気ディスク用アルミ基板は、為替の影響により前年同期を下回る
- ・光学用機能フィルムは、フラットパネルディスプレイ市場で着実に浸透してきたものの、市況低迷の影響で前年同期並み

その他事業

7.1%
4,168百万円



【事業内容】

梱包資材用帯鋼・機械器具・硬質合金の製造および販売

【営業の概況】

- ・コイル結束装置など機械器具は装置本体が前年同期を大きく上回り、部品も前年同期並みであったため全体で前年同期を上回る
- ・硬質合金は、主力の射出成形機部品の需要が低調に推移し、プラスチック金型も低迷したため、前年同期を大きく下回る

売上高構成比

なお、各事業の売上高は事業間の取引による金額を含んでおります。



代表取締役社長

田中厚夫

第115期中間報告書をお届けするにあたり、
代表取締役社長 田中厚夫へのインタビューを通して
当グループの現状と今後の動向をご説明いたします。

TOP INTERVIEW

中期経営計画の 目標達成へ改革を加速 グローバル展開に備え アジアの拠点を強化

Q 当中間期の経営成績について
ご解説ください。

A 震災の影響と海外景気の悪化で、
遺憾ながら減収減益となりました。

上期の国内経済は、東日本大震災によって日本社会全体の
基盤が大きく揺らぎ、企業活動にも大きな変化をもたらしまし
た。とりわけ電力供給の不安定さ、急激な円高により、当社の
受注は上期後半から大きく低迷しました。このような環境の中、
当中間期の連結経営成績は、売上高が577億21百万円(前年
同期比6.1%減)、営業利益21億28百万円(前年同期比
58.9%減)、経常利益21億86百万円(前年同期比57.5%減)、
中間純利益14億73百万円(前年同期比55.1%減)となりまし
た。

とくに厳しい結果となったのが、主力の鋼板関連事業です。
震災による需要減に加え、電機業界においては、大規模な企業
再編や海外への生産シフトといった動きが相次いだことから競
争が激化し、収益性が悪化したことが大きく響きました。これは
上期の最大の反省点で、今後は業界の動向をより速く、正確に

把握するとともに、その関係をより強固なものとするよう、今まで以上に顧客に密着した営業活動を展開しなければなりません。

りです。現在当社は、国内では本社、支店、各営業所の営業拠点と山口県の下松事業所、海外では中国の上海事業所が中心となって事業を展開しています。今後はアジア、主に中国の拠点をより強化し、グローバル市場の動向などを敏速にキャッチできる体制にしたいと考えています。後ほどご説明する中期経営計画の中でも、海外事業の強化を重要施策の一つに掲げており、今後の東洋鋼鈹にとって大きな意味を持つ拠点となると期待しています。

通期の連結業績については、売上高1,212億円(前期比1.7%増)、営業利益60億円(前期比15.7%減)、経常利益62億円(前期比12.6%減)、当期純利益41億円(前期比18.6%増)と予想しています。

当社は現在、2010年度から2012年度までの中期経営計画「STEP UP 100」に取り組んでいます。残念ながら2年目であ

Q 下期の重点施策と通期業績予想についてお聞かせください。

A 経営のグローバル化に向け、アジアの拠点を強化する計画です。

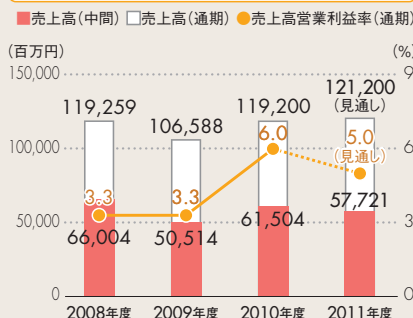
下期の事業環境については、欧州の経済情勢や為替レートの動向などの懸念材料はあるものの、国内市場は緩やかながらも回復してくるだろうとみています。ただ、懸念しなければならないのが、タイでの洪水による影響です。タイでは世界のハードディスク駆動装置(HDD)の大半が生産されており、これに用いる当社の磁気ディスク用アルミ基板の需要が、急速に減少しています。もっとも、この業界はそもそも需要の変動が非常に激しく、今回のような需要の急減にも比較的対応しやすい体質が以前から備わっていますから、生産停止がよほど長引かない限り、業績に大きな影響を及ぼすことはないとみています。

下期の大きなテーマは、経営のグローバル化に向けた体制作

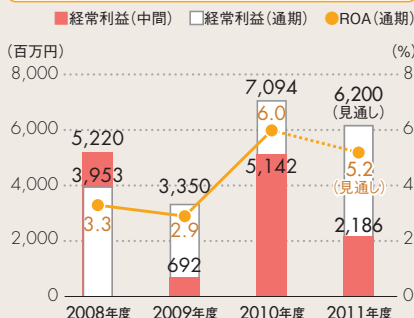
Q 中期経営計画の進捗状況と今後の事業戦略をお聞かせください。

A 最終年度である来期の目標達成に向け、懸命の努力を続けます。

連結売上高／売上高営業利益率

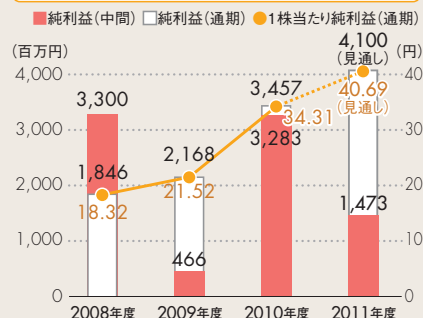


連結経常利益／ROA



※ROA＝経常利益÷総資産(期中平均)×100

連結中間(当期)純利益／1株当たり純利益



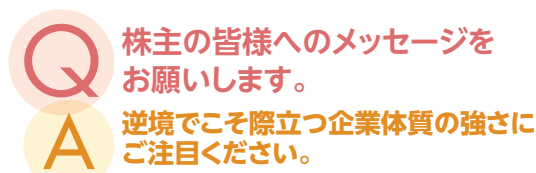


る当期は東日本大震災の影響などもあり、当初計画で掲げていた収益目標に到達することは困難な情勢ですが、上期の落ち込みを下期でできる限り取り戻し、なるべく当初目標に近い水準まで持って行かねばなりません。最終年度である2012年度の損益目標、連結売上高1,280億円、営業利益90億円に関しては現時点では変更せず、何としても達成したいと考えています。

中期経営計画では、主力の鋼板関連事業における大きなテーマの一つとして、新たな用途の開拓を掲げていますが、これに関しては非常に明るい材料ができました。当社の銀鏡めっき金属板「ミラーコートK」という極めて反射率の高い(95%以上)素材が、節電ムードの高まりの中、注目を集めています。光源を覆うフードのように用いる「SetsuDenミラー」として工場や公共機関などに提案しており、消費電力を抑えつつ十分な明るさを確保できることなどが高く評価されています。

このほか新規事業の育成についても引き続き取り組んでお

り、現在はバイオチップの事業化に向けた取り組みを急いでいます。許認可が必要なビジネスですので事業化にはそれなりに時間がかかるのですが、2013年には製造認可を得て事業を立ち上げ、2015年頃には収益化したいと考えています。ほかにもいくつかのプロジェクトが水面下で進行していますので、ぜひご期待下さい。



株主の皆様へのメッセージをお願いします。

逆境でこそ際立つ企業体質の強さにご注目ください。

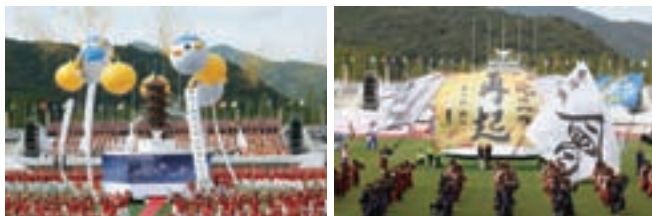
当中間期の配当金につきましては、前年同期と同額の1株当たり4円とさせていただきます。期末配当金も前期と同額の4円を予定しており、年間配当金は1株当たり8円となる計画です。

当社はここ数年、経営基盤の強化を徹底し、強靱な企業体質を構築してまいりました。震災の影響をまともに受けた当中間期はさすがに、減収減益という厳しい経営成績となってしまいましたが、下期には回復基調を取り戻し、通期ではわずかとはいえ増収を確保できる見通しであることも、その強さの表れであろうと自負しております。自らの使命に真摯に取り組み、果敢に挑戦し続けるという東洋鋼鈑のありのままの姿を、より多くの方々に知っていただきたいと私は強く願っており、今後ますます皆様への情報発信などにも力を入れてまいりたいと考えております。

株主をはじめステークホルダーの皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

第66回 国民体育大会「おいでませ! 山口国体」に オフィシャルサポーターとして企業PRブースを出展しました。

10月1日から11日まで開催された山口国体にオフィシャルサポーターの一員としてPRブースを出展しました。ミラーコートKやTULC缶を展示し、全国から集まった選手の皆さんや応援に訪れた多くの方々に、環境にやさしい製品をPRしました。

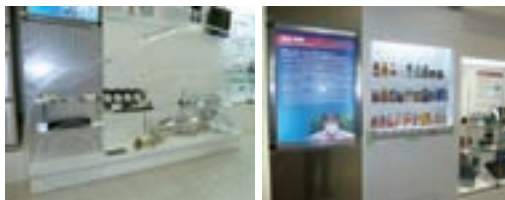


本社ショールームがリニューアルオープンしました。

10月3日、本社(千代田区四番町)1階ショールームがリニューアルオープンしました。今回のリニューアルでは、お客様や来訪される方々に東洋鋼鋳の「ものづくり」をより身近に感じてもらうため、それぞれの製品の使われ方がわかる体験型のショールームとしました。

ショールームの中央には“無限∞”のモニュメントを設置しています。このモニュメントの土台には「ぶりき」、∞ダクトの外側には「植毛鋼板(ファイバーコート)」、内側には「銀鏡めっき金属板(ミラーコートK)」を使用しています。これは東洋鋼鋳の原点(ぶりき)から現在(ファイバーコート、ミラーコートK)、未来に向けた技術への“無限∞”の挑戦を表現したものです。

本社にお越しの際はぜひショールームへお立ち寄りください。



大学と共同開発してきたバイオチップの事業化を目指す

バイオチップで 医療分野に挑戦

バイオチップの開発



◀センサー拡大図

東洋鋼鉄製バイオチップ外観

東洋鋼鉄では表面処理技術をコア技術として、ライフサイエンス分野に貢献する材料の開発を進めてきました。

表面に特殊な処理を施した東洋鋼鉄のバイオチップは、DNAを高密度かつ高強度に固定することが可能です。このバイオチップに特別に設計したDNAを固定することで、薬剤への感受性などを高精度に判定できるようになりました。

これまで大学との共同研究を通じて基礎試験を行ってきましたが、事業化を進めています。

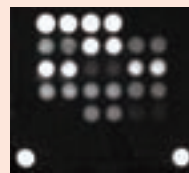
今後も東洋鋼鉄のコア技術を活かして、環境・エネルギー分野や情報・通信分野、ライフサイエンス分野に貢献する材料の開発に努めてまいります。

オーダーメイド医療に貢献

これからの高齢化社会では、患者さんそれぞれに適した治療を受けることができる『オーダーメイド医療』の実現が望まれています。

これは患者さんの体質(DNA)に合った治療を施すもので、これまでよりもキメ細やかな治療が可能になります。また、不必要な投薬を避けることができるため、患者さんの身体的、精神的負担だけでなく、医療費の低減にも役立ちます。それぞれの体質に合った医療が実現すれば、患者さんの負担が減り、これまで以上に安全で安心な医療を提供できると考えています。

東洋鋼鉄では、このような医療社会の実現に挑戦してまいります。



DNA反応後の蛍光画像
(蛍光パターンからDNAを解析)

銀鏡めっき金属板 「ミラーコートK」で節電

「SetsuDen ミラー」は1ワットも無駄にしません

「ミラーコートK」は、東洋鋼鋳が世界で初めて金属板への銀鏡めっき処理に成功した、全反射率95%以上の高効率反射材です。

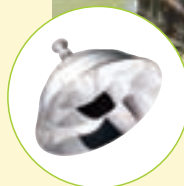
この素材を使用した高天井用反射笠『SetsuDen ミラー』は、従来の反射笠に比べて極めて照明効果が高いため、メタルハライドランプとの組み合わせで使用した場合、最大72%もの節電効果が得られるという事例がありました。これはミラーコートKの反射率95%という特性と、この反射性を最大限に活かす新たな反射笠形状を考案したことで実現できました。1ワットも無駄にすることなく、小さな光源で最高の照度を得ることができ、桁違いの照明効率でワンランク上の省エネルギー効果を発揮しています。

また、オフィス照明に鏡面素材を利用した場合にまぶしい、あるいはパソコンに映り込むなど問題があるとされていましたが、東洋鋼鋳では全面的にミラーコートKを蛍光灯の反射板に導入し、その節電効果を実証しています。お客様からも『節電したのに暗くならない』と好評を得ています。

『SetsuDen ミラー』約80万個分の節電量は福島第一原発1号機の発電能力46万キロワットに相当します。スケールの大きな話ではありますが、『SetsuDen ミラー』で電力使用量を少なくすることが地球環境に役立つと信じ、これからも販売促進に努めてまいります。



SetsuDen ミラー



● SetsuDen ミラーの照明効果

比較その1

市販高反射笠 + メタルハイドランプ360W	→	SetsuDenミラー + メタルハイドランプ360W
------------------------------	---	-----------------------------------

平均照度
44%
up

比較その2

市販反射笠 + 水銀ランプ1000W	→	SetsuDenミラー + メタルハイドランプ360W
--------------------------	---	-----------------------------------

電力消費
62%
down

平均照度
19%
up

◆ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期	前期	科目	当中間期	前期
	2011年9月30日現在	2011年3月31日現在		2011年9月30日現在	2011年3月31日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	64,949	66,090	流動負債	32,476	40,908
固定資産	53,514	54,978	固定負債	7,664	2,728
有形固定資産	45,910	47,347	②負債合計	40,141	43,636
無形固定資産	576	615	純資産の部		
投資その他の資産	7,026	7,015	株主資本	77,613	76,542
①資産合計	118,463	121,068	その他の包括利益累計額	△ 790	△ 624
			少数株主持分	1,499	1,514
			③純資産合計	78,322	77,432
			負債純資産合計	118,463	121,068

◆ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期	前期
	2011年4月1日から 2011年9月30日まで	2010年4月1日から 2010年9月30日まで	2010年4月1日から 2011年3月31日まで
④売上高	57,721	61,504	119,200
売上原価	50,246	51,163	101,690
売上総利益	7,475	10,340	17,509
販売費および一般管理費	5,346	5,157	10,394
営業利益	2,128	5,183	7,114
営業外収益	404	198	463
営業外費用	347	238	483
経常利益	2,186	5,142	7,094
税金等調整前中間(当期)純利益	2,186	5,142	5,649
中間(当期)純利益	1,473	3,283	3,457

POINT

【資産の部】①

総資産は、前期に比べ26億5百万円減少して、1,184億63百万円となりました。このうち流動資産はたな卸資産等は増加したものの、現預金、売上債権が減少したことにより、前期に比べ11億41百万円減少しました。固定資産は、有形固定資産が減少したこと等により、前期に比べ14億63百万円減少しました。

【負債の部】②

負債は、未払法人税等の減少等により、前期に比べ34億95百万円減少して401億41百万円となりました。

【純資産の部】③

純資産は、前期に比べ8億89百万円増加して783億22百万円となりました。これは利益剰余金が増加したこと等によるものであります。

POINT

【売上高について】④

売上高は、為替の影響や海外景気の落ち込みにより、前年同期に比べ37億82百万円減少し、577億21百万円となりました。

会社の概況

商号	東洋鋼板株式会社
本社	東京都千代田区四番町2番地12
設立	1934年4月11日
資本金	50億4,000万円
従業員数	2,203名(連結)
事業所	本社(東京都)、大阪支店、仙台営業所、名古屋営業所、広島営業所、福岡営業所、技術研究所(山口県下松市)、下松事業所(山口県下松市)

役員

取締役会長	三木 啓 史	常勤監査役	田 口 輝 彦
代表取締役社長	田 中 厚 夫	常勤監査役	根 岸 保 弘
取締役専務執行役員	藤 井 厚 雄	監査役	宮 本 光 晴
取締役専務執行役員	富 永 勝 彦	監査役	大 川 邦 夫
取締役常務執行役員	吉 武 潤 一 郎	常務執行役員	大 谷 憲 史
取締役常務執行役員	宮 地 正 文	常務執行役員	外 川 照 義
取締役常務執行役員	坂 本 信 夫	執行役員	毎 田 知 正
取締役常務執行役員	辰 巳 英 之	執行役員	浪 岡 貞 之
取締役	山 本 敏 雄	執行役員	隅 田 博 彦

東洋鋼板グループ

国内

鋼板商事株式会社
 鋼板工業株式会社
 KYテクノロジー株式会社
 東洋パックス株式会社
 共同海運株式会社
 下松運輸株式会社
 東洋パートナー株式会社

海外

TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN.BHD.(マレーシア)
 上海東洋鋼板商貿有限公司(中国)
 湖南東洋利徳材料科技有限公司(中国)
 江蘇東洋鋼板新材料科技有限公司(中国)

株式の状況

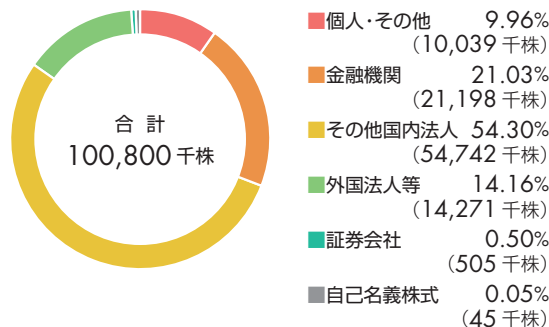
発行可能株式総数	403,200,000株
発行済株式の総数	100,800,000株
株主数	3,381名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東洋製罐株式会社	47,885	47.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,413	4.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,691	3.7
株式会社三井住友銀行	2,980	3.0
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	2,110	2.1
公益財団法人東洋食品研究所	2,055	2.0
三井住友海上火災保険株式会社	1,680	1.7
BBH(LUX)FIDELITY FUNDS-JAPAN ADVANTAGE	1,502	1.5
THE CHASE MANHATTAN BANK, N. A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	1,463	1.5
株式会社淀川製鋼所	1,429	1.4

(注)持株比率は自己株式を除いて計算しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲二丁目3番1号
住友信託銀行株式会社証券代行部
(郵便物送付先) 〒183-8701
東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社証券代行部

(電話照会先) ☎0120-176-417
(インターネットホームページURL) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

公告方法 電子公告(当社ホームページ
<http://www.toyokohan.co.jp> に
掲載いたします。)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって
電子公告による公告をすることができない場
合は、日本経済新聞に掲載して行います。

アンケートにご協力ください

株主の皆様のご意見・ご要望を当社IR活動に反映させるべく、株主アンケートを実施いたします。お手数ですが、本報告書に同封のアンケートハガキにご回答の上、ご返送くださいますようお願いいたします。お一人でも多くの株主様からのご意見をお待ちしておりますので、ご協力をお願いいたします。

東洋鋼鉄株式会社

〒102-8447 東京都千代田区四番町2番地12
電話 (03) 5211-6211 (代表)
ホームページURL <http://www.toyokohan.co.jp>



本冊子は環境保全のため
植物油インキで印刷しています。



ホームページのご案内

コーポレートサイト



社のホームページでは、投資家の皆様向けのIR情報をはじめ、最新のニュースをお知らせする「What's New」、当社の製品を紹介する「身近な東洋鋼鉄」など、さまざまな情報を掲載しております。

<http://www.toyokohan.co.jp>

IRサイト



IRサイトでは適時開示情報をはじめ、決算短信などの各種IR関連資料やIRトピックス、株価情報など最新の情報を提供しております。

<http://www.toyokohan.co.jp/ja/ir/index.html>